

## 世界初のアスパラガス茎枯病抵抗性品種育成と 世界標準品種化への育種技術開発

### 1 代表機関・研究統括者

国立研究開発法人 農研機構九州沖縄研究センター 渡辺 慎一

### 2 研究期間：2018～2022年度（5年間）

### 3 研究目的

アスパラガス茎枯病は日本国内の露地栽培における最大の難防除病害である。本課題では、日本固有種の持つ茎枯病抵抗性を活用した、世界初の茎枯病抵抗性品種を育成するとともに、さらなる育種素材を開発する。

### 4 研究内容及び実施体制

#### ① 有望な育成系統の評価および導入条件の検討と採種技術の開発

抵抗性系統の国内各地での抵抗性、生育・収量特性、若茎の萌芽・品質特性の評価、茎枯病菌の病原性解明、効率的採種法の確立を行う。

（道総研農業研究本部上川農業試験場、秋田県農業試験場、長野県野菜花き試験場、香川県農業試験場、長崎県農林技術開発センター、沖縄県農業研究センター、農研機構野菜花き研究部門、農研機構九州沖縄農業研究センター、（株）サカタのタネ）

#### ② さらなる有望系統作出のための効率的育種技術の開発

効率的な茎枯病抵抗性選抜マーカーの開発、抵抗性遺伝子をホモに持つ個体の作出とその特性評価を行う。

（東北大学大学院生命科学研究科、九州大学大学院農学研究院、香川県農業試験場）

### 5 達成目標

アスパラガス茎枯病抵抗性品種の登録申請を行うとともに、確実に後代へ茎枯病抵抗性を付与することができる育種素材を開発する。

### 6 期待される効果・貢献

日本国内の露地栽培既存産地での生産安定化、西南暖地での露地栽培の再導入、沖縄県での新産地形成等、全国的なアスパラガスの生産振興や、世界に普及可能な日本発のアスパラガス品種が育成される。

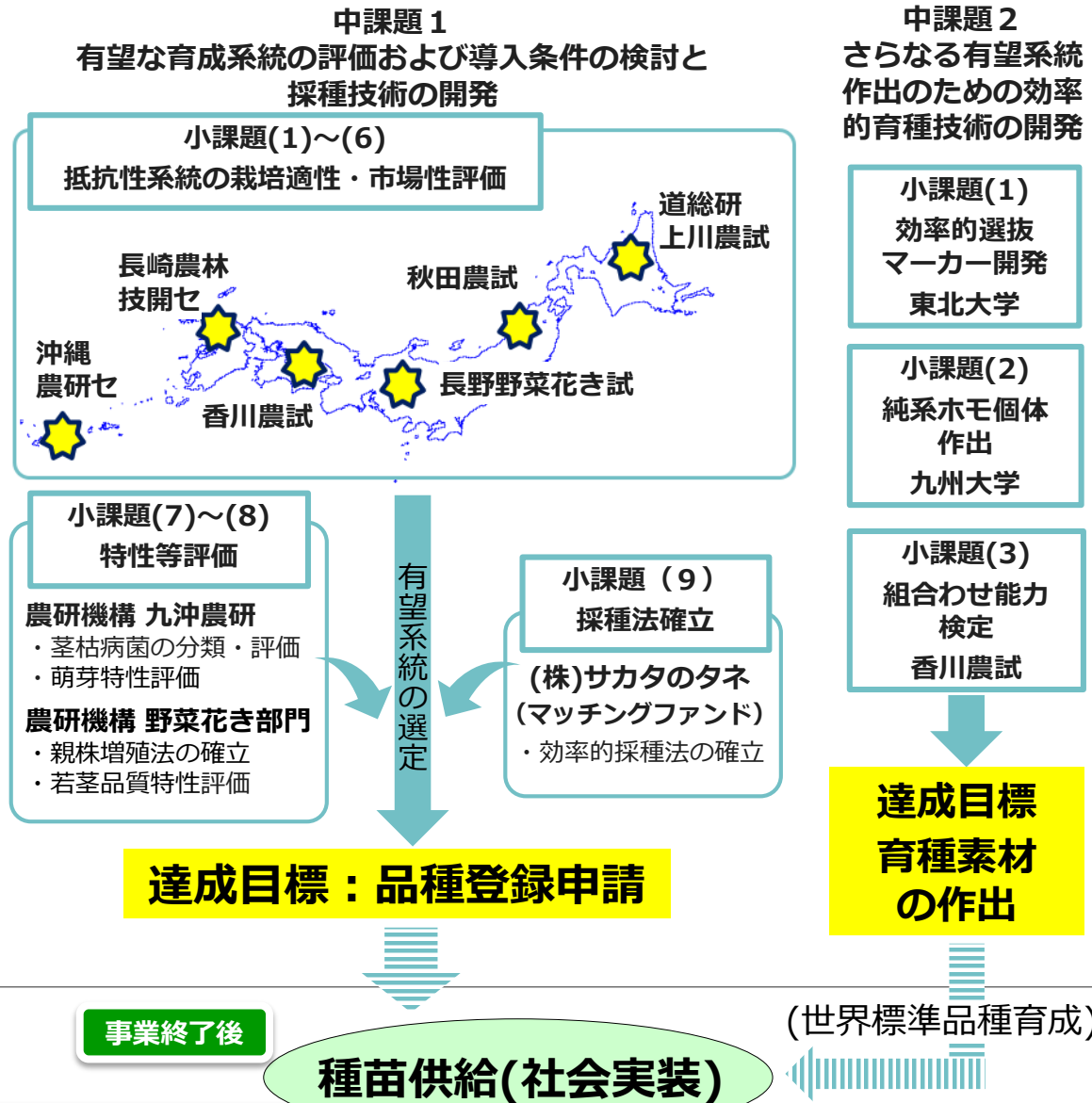
### 研究の目的(背景)

- 茎枯病は日本国内のアスパラガスの露地栽培における最大の難防除病害である。
- 本課題では、日本固有種で茎枯病抵抗性を有するハマタマボウキとアスパラガスの種間交雑による、世界初の茎枯病抵抗性品種を育成するとともに、さらなる育種素材を開発する。



茎枯病の激発圃場

### 研究内容・達成目標



### 期待される効果

#### ○全国的なアスパラガスの生産振興

- 露地栽培既存産地での生産安定化
- 西南暖地での露地栽培の再導入
- 沖縄県での新産地形成



茎枯病に負けない露地アスパラガス